

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成26年10月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は7から5に減少。「減少した」業種は7から3に減少。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は10から9に減少。「減少した」業種は7のまま変化なし。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は2から0に減少。「悪化した」業種は9から11に増加。

前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は5から4に減少。「減少した」業種は8から7に減少。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は8から6に減少。「減少した」業種は8から12に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は5のまま変化なし。「悪化した」業種は13から14に増加。

製造業

豆腐製造

【県内全域】

大豆の高騰は上げどまりの状況で推移している。

乳製品

【県内全域】

牛乳類の売行きが減少。

製材

【木更津】

10月は米材船が一隻入港。ロシア材・南用材は入港なし。昨年と比較すると荷の動きが悪い。

印刷

【県内全域】

売上は8月と比較してほぼ横這いの状況。景気の先行きが不透明な状況を反映し個人消費がもたついている。本来需要喚起を目的にチラシの印刷発注が活発に動くところだが、内需が悪すぎて受注も極端に悪い状況。消費増税後、販促用のチラシ向け需要が回復せず、チラシ用塗工紙の国内出荷は9月が前年同月比9%減と6か月連続で前年実績を下回っている。

電気鍍金

【県内全域】

消費税率の改正で3月の生産額は増額されたが、その後については、以前の予測では8月頃から上向くかと思ったが、その後、急激な円安となり原材料等の値上がり等の影響で景況はあまりよくないようだ。

鉄工

千葉

組合の景気動向調査の結果、売上伸長企業少ないが、悪化までには至っていない。従って、足元の動向は全体として堅調維持しているが、コストアップ要因(材料・電力・人件費等)顕在化の中で、売上転嫁進んでいないため収益は圧迫されている。また、受注型企業には先行き弱含み傾向が見られるようになってきたことから、景況も徐々に悪化となっている。

機械部品製造

【野田】

一部を除き横ばいの状況。業界動向は全般に操業度低下の状況。厳しい状況が続いている。

機械部品製造

【柏】

10月は上期の反動による減少は例年同様だが今年度の方が良い。

金属製品製造

【船橋】

売上高増加しつつも、収益の増加には直結しない。

採石

【県内全域】

10月は東京港新海面地区の護岸強化工事でズリの需要があった。今後は横須賀市で港湾工事に需要が期待できる。

土砂採取

【県内全域】

前月と大きな変化はなく、全般

的に低調であり引き続き事業者の経営環境は厳しい状況にある。

非製造業

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

【米穀卸】 26年産米価格は前年産に比べ約2割ダウン。粗利率は変わらないものの粗利額減少。さらに、前年米処分のため割引販売を余儀なくされ採算性低下。

【食肉卸】 米国産豚肉の価格高止まり。円安影響もあり、低採算が続く。

【建築材料卸売】 【県内全域】

下期回復期待はしばらくはまま。他県は回復とはいかなくとも前年以上出荷しているが、千葉県は民需官需とも落ち込み、当面回復の目途がたたない。

東京は新規引合いも多く、契約残も多量にあり人出不足と供給力不安で工事が進捗していないが、千葉は物件自体が乏しく、東京都東北に取られ割を食っている。

【自動車解体】 【県内全域】

スクラップ価格が前月比20%ダウン。急速に景況感は悪化。

円安が進行したため、輸出向け中古車・中古部品は動きはあるが廃車の発生が少なく、仕入価格が高止まり。

【乾物卸売】 【県内全域】

景況感は引き続き低調。26年度の海苔生産が始まった。種付けは順調に終了。育苗は台風18、19号の影響で10日程遅れが出た模様。本格的摘採が始まるのは千葉について例年より遅れる見通し。

【卸売】 【茂原】

消費の増加はない。アベノミクスの影響は本当にあるのだろうか。飲食店等の繁栄が見られない。

【電気機器小売】 【県内全域】

円安のお陰でメーカーは好転に向かっているが、零細企業の我々は瀕死の状態。

【青果小売】 【千葉市】

青果物の入荷が増え、相場が急落した。資金繰り、収益は好転したが、売上の前月から13%もダウンしてしまった。

【中古車仕入・販売】 【県内全域】

増税後の影響により相場は荒れていたが、昨年を若干下回る水準まで戻ってきている。但し、今年は5年落ち以内の良い車や軽の1年落ちの車両が大幅に増加、在庫で抱えていたものが一気に吐き出され市場は混乱。低年式は輸出が依然好調に推移している。

【小売】 【東金】

ファッション、買回り品がまだ

まだ回復していない。食品関係は、値上がり傾向にある。日用品関連は、動きが鈍い。

【小売】 【野田】

今月は売上が久しぶりに前年同月比を上回った。イベントの頻度を増やしたことが好結果につながったようだ。

【小売・サービス】 【柏】

9、10月と例年より気温が低いせいもあり、来街者も若干増えてる感じがする。その分の売上に貢献しているのか。2週連続の週末台風が無ければもっと良い結果が出たと思われる。

【自動車一般整備】 【柏】

車検整備は相変わらず低調に思われる。増加は望めない状況にあるため板金での収益を図っていく。

【建設揚重】 【県内全域】

安定した状況が継続している。

【遊覧船】 【鴨川】

海況が安定していたおかげで、前年より欠航回数が少なく乗船人員が前年比23、6ポイント上昇した。25年10月欠航日数7日、本年10月欠航日数4日

【一般廃棄物処理】 【千葉】

前年度、前々年度は、10月は安定した良い月であったが、本年は

落ち込みがあった。しかし、前月と同様の結果で、良くはないが悪くもない結果となった。

【学習塾】 【県内全域】

代々木ゼミナールや秀英予備校の縮小問題は、われわれ中小塾にも及びつつあるのは事実。もう一方では、デジタル化の流れが教育界に及ぼす影響が、中小塾にどのような結果をもたらすか、要注意。

【ソフトウェア】 【県内全域】

大規模案件が動き始めており、需要が増えている。業界動向は、新技術として、オープンデータ、ビッグデータ、IOI、ソーシャル、スマートデバイスなどのテーマが旬となっている。

【建設】 【県内全域】

10月の官工事落札額は前月比・前年同月比とも減少した。通年比較では、国からの受注が不調。地域別では通年比較で都市部組合が停滞。

【貨物運送】 【野田】

例年米運搬が増加する時季だが今年米の運搬量が少ない。

【輸出入】 【県内全域】

10月の売上は前月比、前年同月比とも増加傾向であった。